

## 青年部

## 第12回カンファレンス in 岐阜 参加報告

・日時：令和4年11月14日（月）  
12時30分

・場所：高山グリーンホテル  
（岐阜県高山市西之一色町）

・参加者：117名

・来賓

岐阜県環境生活部廃棄物対策課課長 山内康裕氏  
（公社）全国産業資源循環連合会会長 永井良一氏  
（公社）全国産業資源循環連合会専務理事 室石泰弘氏  
（一社）岐阜県産業環境保全協会会長 澤田裕二氏

今年度のカンファレンスは、会員数増加をテーマとした「会員拡大 ～5年後の未来のために今から考え次世代に繋げる～」は、『この3年間コロナ禍を経験し、業界の事業環境にも大きな変化が訪れました。青年部は親会の「産業廃棄物の適正処理の推進」、「国民の生活環境の保全」、そして「わが国の産業の健全な発展」という目的のもと事業の一部を担い、業界の未来のあり方を幅広い視野に立って考え、行動することを通して循環型社会の構築に貢献をしていくことを会則に掲げています。私たちは本カンファレンスをきっかけに、会員拡大へ向けた行動を起こし、業界発展へ寄与する人材の確保・育成を行い目的を果たしていなければなりません。皆で一緒に先頭に立ち、会員一人ひとりが青年部の魅力の発信者となり、全会員一丸で想いを共に行動し、新たな多様な人材を一人でも多く迎え入れ続けていくことが必要です。今回このテーマで全国47都道

府県の部会長の皆様と議論し、各都道府県が抱える事情は異なる中でも、このカンファレンスを通じて新たな考え方や活動に繋がればと考えています。』とのことです。

来賓として挨拶をされた永井良一会長は、愛知県青年部のチャーターメンバーであったことから、青年部への熱い思いを挨拶の中で述べられました。

第一部は「過去～現在まで会員獲得の為にやってきたこと その成果」では、青年部の存在や今後の成長がいかに業界の発展に対して重要であるか、を改めて認識することに重点を置き、そのうえで会員が減少することによりどういった弊害が顕在化してくるかを議論しました。

第二部の「現状に満足せず若い世代を獲得し次世代へ繋げる」では、北海道と熊本県の会員増強に関する事例紹介を全体で行い、その後のグループセッションでは各都道府県の成功例や失敗例を交えた今後の方策を議論しました。

今回、愛知県からは全産連・青年部協議会所属の金田琳副会長と事務局の永井弘見氏、中部ブロック所属の天野晃明会長と東久保翔平会務、また、運営スタッフとして松永 宰副会長、宮下雄一郎副会長、富田康祐幹事が参加し、全国の青年部の会長方々とテーマに沿ったグループディスカッションを行い、青年部の組織活性化に向けた取組について情報を共有することができた有意義な会となりました。

